

「展勝地のサルカニ」  
高校生が中心となって演じたお芝居



## お芝居やもちつきを満喫 緑とちびっこカーニバル

虹の会(後藤玄伸会長)、ユースワーカー協議会主催の第42回緑とちびっこカーニバルは5日、さくらホールで開かれました。多くの親子連れが訪れ、もちつきやウオーラリー、子ども寄席、お芝居などを楽しみました。

もちつきは今年20周年を迎える(株)展勝地(軽石昇社長)の協賛事業として開催。お芝居「展勝地のサルカニ」は、今から1200年以上前の展勝地を舞台に、北上翔南、黒沢尻北高校の演劇部員が熱演し、さくら合唱クラブの透き通った歌声が舞台に花を添えました。

## こどもの日は鬼に変身! 鬼の館でわくわくイベント

親子で鬼に親しんでもらおうと5日、鬼の館で「こどもの日わくわくイベント」が開かれました。鬼やカップのお面に色を塗ったり、きらきら光る風船に思い思いの妖怪を描いたり、鬼剣舞の装束を身に付けたりと多彩なイベントが催されました。

鬼剣舞の着付けを担当したのは、地元・岩崎おなご剣舞の皆さん。きょうだいで衣装を身に付けた齋藤心暖ちゃん(5歳・鬼柳町)、希歩くん(3歳)は「着るのを楽しみにしていた。かっこいい」と笑顔で話していました。



鬼剣舞の衣装を身にまとい、ハイチー  
ズ!

## 手ごろな価格の本が1万冊 春の古本市

北上読書連絡会(八重樫真純会長)主催の「春の古本市」は3日、中央図書館で開かれました。

会場には、市民から提供された子ども向けの絵本から小説までさまざまな種類の本が所狭しと並べられました。その数約一万冊。訪れた人たちは手に取ってじっくりと品定めし、一人で何冊も買い求める姿も多くなりました。

同会は毎年春と秋に古本市を開催し、益金で視力の弱い人のために大活字本を購入し、図書館に寄贈しています。次回の古本市は11月に開催する予定です。

読書愛好家や家族連れが、じっくりと品定めしていました



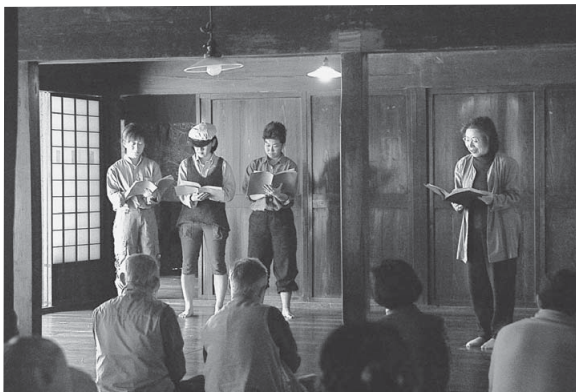
色とりどりに着色された水柱を高く舞い上げた放水訓練

## 力強く火消しの心意気示す 北上市消防演習

北上市消防演習は4月29日、展勝地野球場などを会場に消防団、婦人消防協力隊ら約1,000人が参加して行われました。

快晴の空の下、部隊訓練やポンプ操法、藤根、岩崎幼稚園の幼年消防クラブによる元気いっぱいの演技などが披露されました。演習の目玉の放水訓練では、2年ぶりに「くす玉割り」が復活。64台の消防自動車が、くす玉目がけてカラフルに着色された水を発射。くす玉が割れると、防災標語が書かれた手作りの垂れ幕が現れ、防災意識の高揚に一役買っていました。

多くの家族連れが、方言を交えながらの朗読を満喫しました



## 古民家で感じる賢治の世界 村の語り小屋

消え行く無形の文化財である方言を体験してもらおうと6日、みちのく民俗村の旧小野寺家で「村の語り小屋」が開かれました。これは、民俗村の相澤史郎村長の発案で、今回が4回目。北上市出身の小澤侃司ただしさんによる「秀衡街道の伝説と民話」や劇団・北芸の会(後藤義英団長)のメンバーによる、宮沢賢治の作品「風の又三郎」の群読劇が披露されました。

会場の旧小野寺家は明治34(1909)年に建築された古民家。31人の参加者はノスタルジックな雰囲気にながら、宮沢賢治の世界に浸っていました。

## 藤根地区の清水をめぐる 郷土の自然探索会

博物館主催の第2回郷土の自然探索会は10日、藤根地区で開かれました。市内外から33人が参加。道地の清水群すずから稲葉神社のすず、長すずなど同地区のすずやワサビ田、神社などをめぐりました。

講師の高野祐晃博物館研究員は「水草は農薬などに弱い。水草があるということは水の鮮度の一つの指標になる。人の命にも関わる」と解説。金ヶ崎町から夫婦で参加した河野重勝さんは「すずの環境をもっと守っていかねばならない」と水や環境の大切さを改めて感じていました。

地元すずの人が野菜を冷やしていた道地の



## 男女59チームが健脚競う 平和駅伝継走大会

北上陸上競技場を発着点に3日、第55回平和駅伝継走大会(市、市教育委員会、市体育協会主催)が開催されました。今年から一般男子50歳以上の部が創設され、市内外から昨年を大きく上回る59チームの選手が参加。男女8部門で健脚を競いました。

開会式では、選手を代表し、南中学校陸上部の高橋明男主将(3年)が「自分たちの記録への挑戦を目指し、最後まで全力で走り抜くことを誓います」と力強く宣誓。大会の結果、一般男子の部では専北OB-Aが優勝しました。



栄冠目指してスタートした平和駅伝継走大会



故沢田定三氏と親交のあった熊谷保さんから資料の解説を受ける中津さん(左)

## 「民俗芸能の父」テーマに執筆 しらゆり大使の中津さん

北上しらゆり大使として首都圏で北上市のPRや市への提言をしていただいている作家の中津攸子さん(千葉県市川市在住)は8日、次回作の資料収集のため市立博物館を訪れました。同館には、「民俗芸能の父」と呼ばれる故沢田定三さだぞう氏(明治18~昭和44年)についての貴重な資料が保存されています。中津さんは、「鬼剣舞や鹿踊などの継承に尽力された沢田氏を通して、民俗芸能のすばらしさを伝えていきたい」と創作意欲を語ります。今回の取材を基にした著書は、沢田氏生誕125年に当たる平成22年の発行を目指しています。